

パンタール通信

南北米福地開発協会 会報

2008年7月1日

58号

南北米福地開発協会のレダでの活動が パラグアイのABC新聞に掲載されました。

ESTUDIO SATELITAL ENCARGADO

Hay 800 mil ha. de tierra en poder de campesinos

■ La Asociación Rural del Paraguay contrató a una empresa de imágenes satelitales para realizar un relevamiento de la ocupación territorial en el país. ■ El informe final indica que alrededor de 1.800.000 hectáreas corresponden a parcelas de pequeñas propiedades, que la Federación Oriental tiene 800 mil hectáreas de tierra que fueron cultivadas algunas vez y que otras están convertidas en yacimientos. ■ La ARP sugerirá un plan para la revitalización productiva de esa superficie, con titulación y apoyo técnico, lo que, según estima, puede generar riquezas por unos 1.200 millones de dólares. ■ El dato confirma que la crisis campesina no debe a la falta de tierras. ■ Fernando Lugo justificó ayer las inversiones como medida de último recurso. Página 2 a 8

2008年5月13日

Lo que pudo ser Puerto Casado



POV ANDINA, VUELVE A COSTAR 6, 3.200

レダ近郊のインディヒナの村の労働者がトラックの運転を学び、自ら建設の作業を行う。

2008年5月14日

En Puerto Leda pretenden "enseñar a pescar" para salir de la pobreza

Constar con protección ecológica no es suficiente para desarrollar un producto turístico. Se requiere inversión para mejorar infraestructura.

Puerto Leda es reflejo de dura tragedia

2008年5月14日

CORRUPCIÓN Y FANATISMO RELIGIOSO IMPIDEN INV

Puerto Leda es un un sitio donde reina la miseria

Puerto Leda es la única inversión turística en el Paraguay. Cinco millones de dólares se destinaron a trabajar y transformar un distrito. En Puerto Casado dirigentes políticos y religiosos no aceptan inversiones; lo que impide generar fuentes de trabajo. Reina la miseria

Roque González Vara - roque@elpais.com.py

2008年5月16日



南北米福地開発協会がインディヒナの村に学校を建てる、自然保護のための植樹活動ならびにパンタールを紹介するエコツアーを推進している。

2008年5月15日

La Esperanza cambio con el trabajo

Puerto La Esperanza está habilitado para indígenas cholas, mapuches y guaraníes que buscan una salida laboral y productiva en forma digna en Puerto Leda, donde se reúnen inversiones en desarrollo turístico. La vida en la comunidad tiene un cambio favorable, gracias al trabajo

Roque González Vara - roque@elpais.com.py

2008年5月15日

La Esperanza cambio con el trabajo

Puerto La Esperanza está habilitado para indígenas cholas, mapuches y guaraníes que buscan una salida laboral y productiva en forma digna en Puerto Leda, donde se reúnen inversiones en desarrollo turístico. La vida en la comunidad tiene un cambio favorable, gracias al trabajo

Roque González Vara - roque@elpais.com.py

2008年5月15日

La Esperanza cambio con el trabajo

Puerto La Esperanza está habilitado para indígenas cholas, mapuches y guaraníes que buscan una salida laboral y productiva en forma digna en Puerto Leda, donde se reúnen inversiones en desarrollo turístico. La vida en la comunidad tiene un cambio favorable, gracias al trabajo

Roque González Vara - roque@elpais.com.py

インディヒナの村では新しい学校が出来、その後、村自身で学校の管理と学校の周りの環境つくりのため、花壇を作り、学校の周囲に柵を設け、勉強に集中できるよう努力している。今後、レダに各種技術を高める学校を建設する計画も進行している。今年の日本からのボランティア隊は8月20日から9月5日までインディヒナの村で生活しながら村の学校の柵に沿ってニームの樹を現地の学生、青年と共に植林する計画である。

エコツアーレポート

(2008年4月25日-5月4日)

大沢和子さんから



大沢家でレダに
植えた記念植樹
の前、大沢さん
母娘で写真撮影



大きく育った記念植樹の前で写真を撮る
正本さん

エコツアーレポート（大沢和子）

お母さん、私、五月の連休、休み取れたの
で旅行に行きたいんだけど、どこがいいかな？

「うーん、五月の連休ねーあつ、そういえば
自然にふれられるところがいいんだけど…」

パンタナール通信に、エコツアーレポート
があつたはず…。日程もピッタリ、オッケ
イ、龍馬と竹馬がボランティアで行つたと
ころよ、パンタナール、レダにぜひ行つたら
いいよ！」

「そうね、じゃ、お母さんも一緒にいかな
い？お母さんと一緒にいきたいな。」

次女の由季からの突然の電話でした。由季
は大学を卒業して札幌勤務が決まり、実家の
東京の家族と離れて一人暮らし、四年目にな
ります。由季と二人だけで旅行に行つてみた
い。という気持ちもあり、様々な事情も頭か
ら飛んで、「私も行こう！」と決意してしまつ
たのです。それからが大変。費用、仕事のこと
と。母の介護を頼むためのヘルパーさんの手
配、黄熱病の予防注射、etc..あれこれあり
ましたが、夫をはじめ家族といろいろの方々
の御協力のお陰様で何とか準備が出来、出発
の日を迎えることができました。

今回のエコツアーレポートは中部国際空港からの出
発でした。香港、ヨハネスブルグ経由してサ
ンパウロへ到着。ここで1泊して、翌朝、ア
スンシオンへ。アスンシオン空港では、佐野
さんが、出迎えてください、空港の特別室？
に案内され、ちょっと乗り物酔い気味だった

娘と私はホッと一服することができました。

それから、いよいよ九人乗りのチャーター機で
レダへ向かいます。雲の中を縫つて飛んで行く
スリルと白い綿雲の影が模様のように見える下
界の景色、青空のきれいなこと。しばらくする
と眼下に蛇行するパラグアイ川とやしの木のジャ
ングルが現れ、いよいよパンタナール、レダに
近づいてきたことを感じ、わくわくしてきました。
約二日がかりでやつとレダに着くことがで
きました。

お天気も良好。レダでは、スタッフの方々が
暖かく出迎えてくださいました。案内されるま
まに入つたゲストハウスは気持ちよく整えられ
た空間でした。しばらくすると、昼食。いろい
ろなお料理の中におそばと豆腐と大根おろし、
お味噌汁などが用意してあり、感激。それモレ
ダで出来た大根と聞き、驚きました。

何回もの機内食に疲れていた胃にはありがた
く、とてもおいしかったです。新鮮なフルーツ、
レダ基地でとれた蜂蜜入りジュース、今まで
忘れがたいおいしさです。昼食後は早速、植樹
した木々たちとのご対面です。広い植樹園には
樹の一本一本に住所が付いていて、前もつてそ
れぞれの樹を調べていて下さり、車で案内して
くださいました。七年前に植えた夫の樹のマン
ゴーは四年前に初めて実がなつたとき、写真を
送つていただきました。二〇〇五年に青年
ボランティアに参加した長男が植えた樹と去年
実家の父と母の名で植樹していただいた樹も元
気に育つている姿を見ることができ、嬉しく、

娘と一緒にしつかり写真を撮りました。スタッフの方々の丹精の賜物と感謝します。その後私たちは夕食までの時間、パラグアイ川の支流沿いの道路をドライブすることができました。この道は、土を積み上げて作つたとのこと。道の脇はすぐ水辺で紫の水草の花がきれいなこと。いろいろな鳥たちも群れを成して飛んでいます。道路に出てきた大きなワニを見ることが出来ました。トウユユという鶴のようなめずらしい鳥もいました。まさにここぞパンタナールという景色が広がっています。なんと言つたらいいのでしょうか。写真やビデオで見るだけでは感じられないものが、ここにはありました。この素敵でしょ。な道を、翌日は馬車に乗つて、のんびりと楽しめました。かわいいカピバラの家族にも会えました。そして夜は満天の星空です。初めて見た南十字星。天の川。神秘的で、言葉にすることが出きません。このすばらしい自然環境をこのままずつと残していく為に、地球のあちこちで進んでいる環境破壊がこれ以上進まないよう、すべての人が幸せになれるように、流れ星に願いを込めながら、レダ基地での1日目が終わりました。翌朝、日の出前的一段と澄みきつた空気の気持ちよいこと。朝焼けの空、パラグアイ川の向こう岸の地平線からオレンジ色の太陽が見る見るうちに昇つてきます。給水塔の日陽園の文字が朝日で輝いていました。二日目の午前中、ボートでレダ近隣のインディヒナの村に行きました。パラグアイ川と青い空とやしの林、風を切つて進むボートの気持ちよいこと。

私たちのボートが近づくと子供たちと学校の先生、村長さんが笑顔で迎えてくださいました。学校では、「咲いた、咲いた、チューリップの花が…」の歌を、生徒たちが上手に歌つてくれました。4年前、日本から来たエコツアーの女性達から教えてもらったこの歌が、学校の校歌になつているとのこと、驚きです。娘が子供たちをデジカメで撮っていると、あつという間にカメラを覗き込む何人の子供たちで囲まれていきました。生き生きとした目を持つている子供たちです。三石さんが「青年ボランティアに参加したお母さんとお姉さんです。」と紹介してくださると学校の先生が「息子さんのことを覚えています。」と言って下さつて、感激でしたが、私たちも、もつと積極的に何か子供たちと交流する準備をしてくればよかつたと、後になつて思いました。心残りで村を離れ、レダ基地へ帰りました。午後は乗馬と馬車での散策の後、ゲストハウスのそばに植樹するように二ームの苗を用意してくださつていきました。自分の手でこの地に植樹できたことが嬉しく、杭にそれぞれの思いを込めて名前や一言書き添えました。



一日研修会（六月一五日）大山ふるさと会館にて

当日三名の比較的高齢のご婦人がセミナーに参加されることになり、従来よりは人数が多くなり環境問題と植樹活動の関心の高まりが感じられる。前半の「環境問題とパンタナール植樹活動」と題して戸石 緑の会事務局長の話が始まった。一時間のプレゼンテーションで森林破壊、砂漠化、地球温暖化などの現状が説明され、休憩を挟んでパラグアイ・パンタナールにおける植樹活動の様子を説明された。半乾燥地を土壤改良をなし、ジャトロファやニームやモリンガの有用樹木やチバト、桃色イペー、ラパチヨ、などパラグアイ南部で自生している木々を八年の間、育てることにより、鳥のえさになる土中に小動物が増加し種々の鳥たちが飛来し定着するようになったという。後半は南北米福地開発協会理事岩澤氏による「パンタナールエコツーリズムの魅力」と題した話だ。氏は長年ボリビアに滞在した経験を持ち、現在は理事としてアウトパラグアイ州のペエルトレダに幾度か足を踏み入れた人だ。



講師 岩澤 南北米福地開発協会理事

参加者の感想文

環境問題や有用作物の利用方法など非常に興味があるので、お話を大変ためになりました。特に環境破壊だのエネルギー問題だと、世間やメディアが騒ぎ立てているだけなのに對し、問題解決のための行動をされているという点、さらに具体的に成果を上げられているということに感心します。有用植物の栽培やその利用方法について学んでいるのでジャトロファやニームにも関心があります。熱帯植物を日本で研究するにも、環境や土壤条件が異なるため、研究そのものにも疑問が生じることも多いため現地での活動を体験してみたいです。

国際協力青年ボランティア支援金再度のお願い

八月一五日から出発する事になつており、すでに現地のインディヒナの村では準備万端、来てくれる事を心待ちにしていましたが青年たちが現地に行く旅費の一部援助と現地で植樹をするための苗木と保護柵の購入のための資金がまだ不足しています。再度のお願いです。再度のお願いで恐縮ですが左記の口座に支援金をお願いたします。



南北米福地開発協会 事務局
〒二二三一〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区
溝口三一十一十五
岩崎ビル四F
電話 ○四四一八一九一二八二一
FAX ○一七七六八〇四七一
会費納入 郵便口座
一〇一八 ○一七七六八〇四七一
代表 柴沼邦彦
E-MAIL office@ssd-nsa.jp
ホームページ <http://www.ssd-nsa.jp>